

## 修士論文概要

## Dark Triad と戦略的な対人行動

—— 他者操作方略と対人葛藤方略に着目して ——

下 司 忠 大

## 問題と目的

他者に嫌悪感や苦痛を与えるパーソナリティ特性として近年、Dark Triad (Paulhus & Williams, 2002) に注目が集まってきている。Dark Triad とはマキャベリアニズム、自己愛傾向、サイコパシー傾向の3特性の総称であり、一般的なパーソナリティ特性として捉えられる概念である (Paulhus & Williams, 2002)。Dark Triad は様々な反社会的な行動との関連が確認されているが、Dark Triad が高い者がそのまま顕示的に反社会的行動をすれば、社会的な排斥を招いたり、周囲から非難を浴びて社会的な立場が危うくなったりする恐れがある。Dark Triad はこのようなリスクを避けるために、様々な戦略的な対人行動を行っていることが示されてきている (e.g., Jonason & Webster, 2012)。このような Dark Triad と戦略的な対人行動の関連の検討は Dark Triad の適応性を明らかにする上で重要であるにも関わらず、未だ先行研究は少ないのが現状である。

日本においては Dark Triad の研究が少なく、3特性を簡便に測定する上で高い妥当性を備えた尺度がないという問題がある。そこで本研究ではまず日本において Dark Triad を簡便に測定する尺度を作成する。そしてその尺度を用いて、Dark Triad 傾向の高い者の戦略的な対人行動を明らかにするために他者操作方略、および対人葛藤方略に着目し、Dark Triad との関連を検討する。

## 研究1：日本語版 Short Dark Triad の作成

**目的** Dark Triad の3特性を測定するそれぞれの尺度は既に存在しているが、その既存の尺度を用いると、Dark Triad を測定するだけで多くの項目数を要するという問題がある。そこで本研究では、海外で作成された Dark Triad を簡便に測定する尺度である Short Dark Triad (Jones & Paulhus, 2014) の日本語版を作成し、その信頼性および妥当性を検討することを目的とする。

**方法** 調査対象者は190名であった。このうち、欠損項目のない189名（男性：83名、女性：106名、平均年齢：19.76 ( $SD = 1.10$ )) が分析対象者となった。使用尺度は日本語版 Short Dark Triad, Mach-IV (中村他, 2012), NPI-35 (小西・大川・橋本, 2006), LSRP (杉浦・佐藤, 2005) を用いた。日本語版 Short Dark Triad の項目の訳語に関してはバックトランスレーションを行い、その項目内容が、原版の尺度の項目の意味内容と同等の内容であることを原著者の1人である Delroy L. Paulhus が確認した。Mach-IV, NPI-35, LSRP は Dark Triad の3特性を測定する既存の尺度であり、Mach-IV はマキャベリアニズム、NPI-35は自己愛傾向、LSRP はサイコパシー傾向をそれぞれ測定する尺度である。NPI-35は注目欲求、誇大感、主導性、身体賞賛、自己確信の5下位尺度で構成される。LSRP は情動面の障害を表す一次性サイコパシーと行動面の障害を表す二次性サイコパシーの2下位尺度で構成される。

**結果** SD3-J の信頼性係数として  $\alpha$  係数を算出したところ、マキャベリアニズムの  $\alpha$  係数は .72、自

己愛傾向の  $\alpha$  係数は .73, サイコパシー傾向の  $\alpha$  係数は .65 を示した。SD3-J と既存の尺度との相関係数を算出した結果を Table 1 に示した。

Table 1. SD3-J と既存の尺度との相関

	SD3-J		
	M	N	P
Mach-IV	.47***	.08	.40***
NPI-35	.24***	.81***	.23**
注目欲求	.29***	.67***	.22**
誇大感	.18*	.75***	.28***
主導性	.13	.76***	.14
身体賞賛	.06	.46***	.19**
自己確信	.21**	.36***	.03
LSRP	.49***	.23**	.54***
一次性	.50***	.31***	.55***
二次性	.13	-.10	.17*

注) M=マキャベリアニズム; N=自己愛傾向; P=サイコパシー傾向

\*\*\* $p < .001$ , \*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

**考察** SD3-J のマキャベリアニズムと Mach-IV, 自己愛傾向と NPI-35, サイコパシー傾向と LSRP との相関はいずれも中程度以上の正の相関を示し, SD3-J の併存的妥当性が確認された。また, SD3-J のマキャベリアニズム以外はいずれも対応しない既存の尺度との間に併存的妥当性を示す相関よりも低い相関を示した。したがって, 部分的ながら, SD3-J の弁別的妥当性が確認された。

## 研究 2 : Dark Triad と他者操作方略との関連

**目的** Dark Triad の中心的な特徴として他者操作性が挙げられるが, 具体的に Dark Triad が高い者がどのような方略を用いて他者操作をしているのかに関する研究は未だ少ない。そこで本研究では Dark Triad と他者操作方略との関連を検討することを目的とする。

**方法** 調査対象者は研究 1 の調査対象者のうちの 202 名であった。そのうち, 欠損項目のない 197 名 (男性 : 65 名, 女性 : 132 名, 平均年齢 : 19.83 ( $SD = 1.14$ )) が分析対象者となった。使用尺度は SD3-J, 他者操作方略尺度を用いた。他者操作方略尺度は寺島・小玉 (2004) によって作成された他者操作方略尺度を用いた。他者操作方略尺度は自己優越的感情操作 6 項目, 自己優越的行動操作 5 項目, 自己卑下的感情操作 5 項目, 自己卑下的行動操作 5 項目の 4 尺度で構成される尺度である。「全くしない」から「よくする」までの 6 件法で回答を求めた。

**結果** Dark Triad と他者操作方略との関連を検討した結果を Table 2 に示した。マキャベリアニズム, サイコパシー傾向はすべての他者操作方略との間に有意な正の相関を示し, 自己愛傾向は自己優越的感情操作のみと有意な正の相関を示した。

**考察** この結果から, マキャベリアニズムやサイコパシー傾向が高い者は, 自己優越的・高圧的に他者を操作するだけでなく, 弱いふりをしたり, 自虐的にふるまったりすることによって, 様々に戦略的に他者の行動や感情を操作する傾向にあることが示唆された。また, 自己愛傾向は自己卑下的な他者操作と関連が示されなかったが, この点については自己愛傾向の誇大的な特徴が自己卑下的な他者操作を

Table 2. Dark Triad と他者操作方略

	M	N	P
自己優越的感情操作	.35***	.24**	.35***
自己優越的行動操作	.48***	.13	.38***
自己卑下の感情操作	.38***	.09	.25***
自己卑下の行動操作	.37***	.07	.30***

注) M=マキャベリアニズム; N=自己愛傾向; P=サイコパシー傾向

\*\*\* $p < .001$ , \*\* $p < .01$

抑制したものと考えることができる。

### 研究3：Dark Triad と対人葛藤方略との関連

**目的** 研究2ではDark Triad 傾向の高い者の他者操作について検討を行なった。Dark Triad 傾向の高い者のこのような自己中心的な行動は他者との不和を招く恐れがある。このような対人葛藤状況においてDark Triad 傾向の高い者はどのように葛藤解決を行うのだろうか。そのような背景から本研究では、Dark Triad と対人葛藤方略との関連を検討することを目的とする。

**方法** 調査対象者は243名であった。そのうち、欠損項目のない220名（男性：77名、女性：142名、不明：1名、平均年齢：19.47（ $SD = 1.11$ ））が分析対象者となった。使用尺度はSD3-J、対人葛藤方略尺度を用いた。対人葛藤方略尺度は加藤（2003）によって作成された葛藤解決の方略を測定する尺度である。対人葛藤方略尺度は統合スタイル4項目、回避スタイル4項目、強制スタイル4項目、自己譲歩スタイル4項目、相互妥協スタイル4項目で構成される尺度である。「あてはまらない」から「よくあてはまる」までの4件法で回答を求めた。

**結果** Dark Triad と対人葛藤方略との関連を検討した結果をTable 3に示した。Dark Triad はいずれも強制スタイルと有意な正の相関を示した。また、自己愛傾向やサイコパシー傾向は回避スタイルや自己譲歩スタイルと有意な負の相関を示した。

Table 3. Dark Triad と対人葛藤方略

	M	N	P
統合スタイル	.04	.02	-.11
回避スタイル	-.01	-.19**	-.18**
強制スタイル	.23***	.42***	.44***
自己譲歩スタイル	-.07	-.15*	-.19**
相互妥協スタイル	.12	-.11	-.13*

注) M=マキャベリアニズム; N=自己愛傾向; P=サイコパシー傾向

\*\*\* $p < .001$ , \*\* $p < .01$  \* $p < .05$

**考察** この結果は、Dark Triad 傾向が高い者は基本的には対人葛藤時に強制的に相手を言いくるめするような方略をとる一方で、時には自分の意見と相手の意見を統合したり、お互いに妥協したりするような方略をとることもあることを示唆するものである。ただし、自己愛傾向およびサイコパシー傾向が高い者に関しては、完全に相手の意見に譲歩したり、対人葛藤を回避したりするような方略をとらない傾向にあると考えられる。

## 総合考察

本研究では Dark Triad の適応性についての理解を深めるために、Dark Triad 傾向が高い者の戦略的な対人行動に注目し、検討を行なった。研究2の結果から、特にマキャベリアニズムおよびサイコパシー傾向が高い者は戦略的に他者操作を行うことが明らかとなった。また、研究3の結果から、マキャベリアニズムが高い者は他の2特性に比べてより柔軟に葛藤解決を行うことが明らかとなった。マキャベリアニズムが高い者は自己中心的な目的を達成するためにあらゆる手段を用いる傾向にあることが示唆される。サイコパシー傾向が高い者も、様々な手段で他者を操作するものの、対人葛藤場面のような対人ストレス状況下においてはより不適応的な仕方でも葛藤を解決することが示唆された。自己愛傾向が高い者は、他者操作方略の中では自己優越的な感情操作のみを行い、かつ強制的に対人葛藤解決をすることから、他者操作場面や対人葛藤場面においては他者との齟齬を生じやすいことが示唆された。

## 引用文献

- Jonason, P. K., & Webster, G. D. (2012). A protean approach to social influence: Dark Triad personalities and social influence tactics. *Personality and Individual Differences*, 52, 521-526.
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2014). Introducing the short Dark Triad (SD3): a brief measure of dark personality traits. *Assessment*, 21, 28-41.
- 加藤 司 (2003). 大学生の対人葛藤方略スタイルとパーソナリティ, 精神的健康との関連性について 社会心理学研究, 18, 78-88.
- 小西 瑞穂・大川 匡子・橋本 宰 (2006). 自己愛人格傾向尺度 (NPI-35) の作成の試み パーソナリティ研究, 14, 214-226.
- 中村 敏健・平石 界・小田 亮・齋藤 慈子・坂口 菊恵・五百部 裕・清成 透子・武田 美亜・長谷川 寿一 (2012). マキャベリアニズム尺度日本語版の作成とその信頼性・妥当性の検討 パーソナリティ研究, 20, 233-235.
- Paulhus, D. L., & Williams, K. M. (2002). The Dark Triad of personality: Narcissism, Machiavellianism, and psychopathy. *Journal of Research in Personality*, 36, 556-563.
- 杉浦 義典・佐藤 徳 (2005). 日本語版 Primary and Secondary Psychopathy Scale の妥当性 日本心理学会第69回大会発表論文集, 407.
- 寺島 瞳・小玉 正博 (2004). 他者操作方略尺度作成の試み 筑波大学心理学研究, 28, 89-95.